

令和2年9月24日

養父市議会議長 深 澤 巧 様

決算特別委員会

委員長 荒 田 幹 夫

決算特別委員会審査報告書

令和2年8月26日、本委員会に付託された事件は、審査の結果、下記のとおり決定したので、養父市議会会議規則第101条の規定により報告します。

記

1 審査年月日

令和2年8月28日(金)・31日(月)・9月2日(水)・4日(金)・7日(月)・8日(火)

2 審査結果

| 議案番号 | 事 件 名 | 審査結果 |
|-------|---------------------------------|---------|
| 認定第1号 | 令和元年度養父市一般会計歳入歳出決算認定について | 認定すべきもの |
| 認定第2号 | 令和元年度養父市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について | 認定すべきもの |
| 認定第3号 | 令和元年度養父市養父歯科診療所特別会計歳入歳出決算認定について | 認定すべきもの |
| 認定第4号 | 令和元年度養父市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について | 認定すべきもの |
| 認定第5号 | 令和元年度養父市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について | 認定すべきもの |

| 議案番号 | 事 件 名 | 審査結果 |
|-------|-------------------------|---------|
| 認定第6号 | 令和元年度養父市水道事業会計決算認定について | 認定すべきもの |
| 認定第7号 | 令和元年度養父市下水道事業会計決算認定について | 認定すべきもの |

3 審査意見

別紙のとおり「令和元年度決算に対する意見」を付する。

**令和元年度
決算に対する意見**

**第 100 回定例会
令和 2 年 9 月 24 日**

養父市議会決算特別委員会

決算特別委員会審査報告書

1 総括的事項

決算特別委員会は、8月28日から9月8日までの間、付託された令和元年度一般会計、4特別会計及び2企業会計について、決算書及び審査資料並びに監査委員決算審査意見書などを参考に、各部局への質疑を行い慎重に審査を行った。

令和元年度は昨年度に引き続き国家戦略特区を推進し、「まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略」に基づき、定住対策や子育て支援など創生事業の取り組みを強化した予算が組まれた。

一般会計の歳入は188億2,719万円で、前年度と比べ959万円(0.1%)の減額となった。この主な要因は市債、地方交付税などが減額となったものである。

歳入の構成割合は、市税、使用料及び手数料、諸収入など自主財源の比率は25.8%と前年度と比べ構成比は0.7ポイント増加した。これはふるさと納税が大きく増額となったことなどによるものだが、低い状況は変わっていない。

地方公共団体の財政力を示す財政力指数は0.233と県下の市町の中で最も低く、依存財源74.2%のうち地方交付税が49.9%、国県支出金が14.7%を占めるなど、依然として国の施策などにより大きな影響を受けやすい財政基盤の弱い財政構造は変わっていない。

一方、一般会計の歳出総額は179億107万円で、前年度と比べて1億5,778万円(0.9%)の減額となった。普通会計ベースにおける義務的経費は、地方債の償還の終了などにより公債費が2億2,885万円の減となり、全体で2億1,728万円の減額となった。

投資的経費は、文化会館等建設事業や平成30年7月豪雨などの災害復旧費が減となったものの、私立認定こども園整備事業補助金の増などにより7,992万円の増額となった。

繰り越すべき額1億9,095万円を除いた実質収支は7億3,516万円で前年度と比べ3,433万円(4.9%)増となった。

施策全般として市長をはじめ、職員の果敢な挑戦の積み重ねもあって、総じて円滑な市政運営が行われていることは評価できる。

本委員会では、予算が市民のためにどのように執行されたのか、また市の振興、発展にどのように活かされたのかなどを中心に審査を行った。その中で明らかになった課題について、個別事項を付すものとする。

山積する課題を市民と共有し、市民が元気で安心して暮らせるまちづくりの実現に向け、一層の精励を期待する。

2 個別意見

- (1) ふるさと納税の寄附額は、前年度より35.1%増の5億4,450万円と県下41市町の中で5番目となったことは高く評価できる。今後も体制を強化す

るとともに、独自色を出した特産品の導入、返礼品の内容を強化するなど、さらなる成果を目指されたい。

- (2) 国家戦略特区で企業の農業参入など様々な規制改革事業を行っているが、特区を活用した企業に対する支援だけではなく、個人農家に対する支援を強化されたい。
- (3) エリア別「住みたい田舎」ベストランキングで2年連続近畿地区第一位になったことも後押しとなり、養父市への移住者は増えつつある。空き家の利活用による移住定住の推進、県等と協力した社会増への対策などにより、人口減少を食い止めるための効果的な施策をさらに講じられたい。
- (4) 縁結び世話人が199人登録されているが、実績は2組のみである。若者の結婚を増やすために、世話人の情報交換会を定例化し情報共有するなど、成果につながるよう努められたい。
- (5) 第3次養父市男女共同参画プランを策定し、男女共同参画社会実現のため、各審議会及び委員会などの女性の登用率30%を目標にしているが、達成できていない。行政が先導役として30%の目標を達成し、各方面に向けて役員など女性登用へのさらなる啓発活動に努められたい。
- (6) 養父市老人クラブ連合会加入数は毎年減少している。高齢化が進む中、老人クラブは地域では重要な活動団体である。市老人クラブ連合会に加入していない老人クラブに対する補助金を検討するなど、活動に対する支援を行われたい。
- (7) 出産・子育ての相談や悩みは複雑多様化し、対応にあたる保健師にあっては、その機会の増加に加え、制度の拡充や新設に伴う事務量も増加している。日本一子育てしやすいまちの実現に向け、サービス向上に伴う体制整備と強化を図られたい。
- (8) 空き家・空き地の増加は大きな社会問題となりつつある。関係各課の連携を深め、利活用の促進や横断的な情報共有を図るとともに、解体・撤去支援も含めた総合的な対策強化と推進に努められたい。
- (9) 現消防団員数は定数1,360人に対し、1,246人と定員割れの状態となって

いる。団員の処遇改善など消防団の魅力向上を図り、団員の確保に努められたい。

(10) 災害発生時は、防災や災害復旧を担当する一部の職員に大きな負担がかかっている。また、このコロナ禍でも、多岐にわたる支援を行っており、担当する職員の負担が大きい。災害時における職員の配置については、適材適所で横断的な対応や会計年度任用職員の増員などを検討されたい。

(11) 公民館事業は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために事業を中止したことなどにより利用者が減少している中、関宮公民館においては芝生広場を活用した新たなイベント開催により参加者が増となっている。公民館の利用者増をめざし、行政による集いの場の提供、各種イベントの開催、公民館活動の充実など、公民館の価値を高めるようさらに工夫されたい。